

調査概要・基本属性・調査の枠組み

調査概要

●調査テーマ

中高生の英語学習の実態と意識に関する調査

●調査方法

郵送法による自記式質問紙調査

●調査時期

2014年3月

●調査対象

全国の中1生～高3生 6,294名 (有効回答数)

*中1生 1,057名 中2生 1,028名 中3生 996名
高1生 931名 高2生 790名 高3生 1,433名
学年不明 59名

*調査依頼は、東京大学・社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所の共同研究「子どもの生活と学び」プロジェクトの調査モニターと非モニターに対して行った。そのため、回収率はモニターと非モニターと分けて算出している。

*モニター 配布数 4,021名、回収率79.2%
非モニター 配布数 14,800名、回収率21.0%

●調査項目

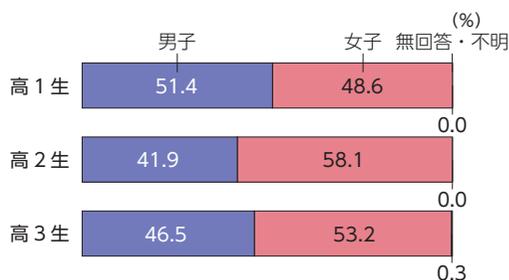
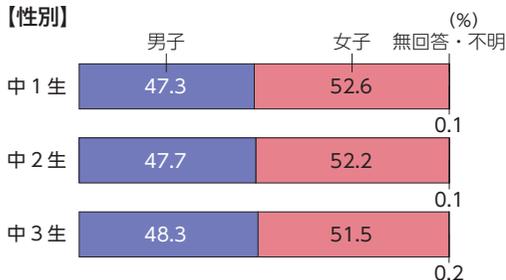
幼少期の英語体験・学び／小学校英語・学校外学習の役立ち感／授業の理解度／授業における活動内容／先生の授業での英語使用／勉強時間／学校外学習／習い事／学校の授業の予習・復習／英語の好き・嫌い／つまずき／英語の学習観／外国や英語との関わり／自主的に英語に触れる活動／英語の必要性／将来の英語使用、など。

【分析にあたって】

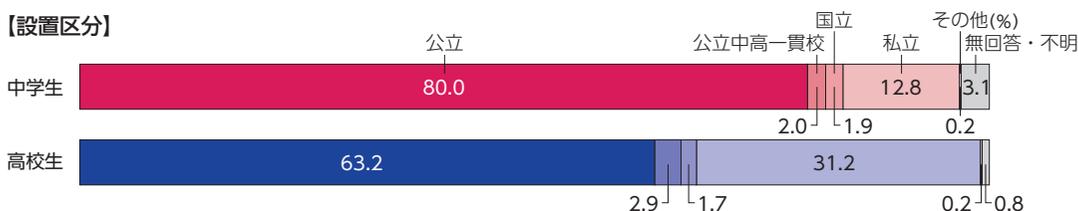
学校段階別の比較の精度を高めるため、分析時には全国の学年別生徒構成比（文部科学省「学校基本調査」参照）および進研ゼミ会員／非会員比が実際と等しくなるようにウェイトの設定を行った。以下、調査結果は、データにウェイトの設定をして集計したものである。

基本属性

【性別】



【設置区分】



調査の枠組み

●本調査の設計は、以下のように、量的研究と質的研究を交互に行うことによって明らかになった、実態や課題に基づいて行われている。

